

サンティッコはかつて母国イタリアをはじめとした欧州や日本メーカで自動車をデザインした経歴をもち、現在は日本に拠点を置くデザイナーのサンティッコ・フランチェスコ氏によるバイクブランドだ。ファーストモデルであるRB・01は、これまでの既成概念にとらわれない独特のデザインが特徴的なバイクであり、獲物を狙うチーターをモチーフにしたものであるという。

「独創的なデザインの自転車といえば、アワレコードに挑んだバイクしかり、これまでに多く誕生してきたが、サンティッコがそれらと異なるのがUCI規定に完全に準拠してデザインされているロードバイクであるということだ。伝統的な自転車としての形状を踏襲しつつも、個性的な魅力を放っているのは、自動車やオートバイというデザインを手がけてきた氏の工業デザイナーとしての手腕にほかならない。

を経てリアエンドまで流れるようなラインを生かしたデザインを採用する。実際の乗り味についても管氏のインプレッションを読めばわかるとおり、レーシングバイクとして秀逸といえるレベルにまで引き上げられている。

また現在のロードバイクで標準ともいえるディスクブレーキ仕様であることから、性能に対するこだわりが垣間見える。生産はパートナーシップを結んだ台湾のパートナー企業が行っているという。唯一無二のバイクを望むユーザーにとってはこれ以上ないほどの選択肢となるのは間違いない。価格面においてもマスパロダクションと比較してしまえば高価格帯でこそあるが、その生産台数や、かかる労力を考慮すれば決して高額といえない価格設定だ。鎌倉でデザイン事務所とともに営むカフェがRB・01のショールームを兼ねているという。デザイナーの存在を身近に感じるバイクというのも悪くない。

# 01

NEW MODEL IMPRESSION

# SANTILLO

サンティッコ

問：バイクショップKベース <https://k-basebicycle.com>  
TEXT：猪俣健一／管洋介 PHOTO：猪俣健一

## IMPRESSION

### スムーズで回しやすいペダリング性能が魅力

誘ってくれる。硬質な立ち回りでフレーム剛性が高く感じるのに、ペダリングに疲労が残らないのは非常に魅力的だといえる。アグレッシブな走りにしっかり呼応する駆動力をもち合わせていて、上りでの高回転や立ち上がりの加速など、スピードの変化に十分対応できるレースシーンで通用するパフォーマンスが発揮される。ステアリングのキレもよく安心できる接地感も確保されたことで、安全かつスピーディーなコントロールが可能なバイクへと仕上げられている。



IMPRESSION RIDER > 管洋介

競歴23年のベテランライダーで自身のチーム、アヴェントゥーラサイクリングの代表も務める。長年の経験を生かした的確なインプレッションが持ち味。身長168cm



## RB-01

42万円(フレームセット/税抜)

■フレーム：カーボン ■フォーク：カーボン ■コンポーネント：シマノ・アルテグラDI2 ■ハンドル：FSA・ ■ステム：FSA・ ■シートポスト：専用カーボン ■サドル：フィジーク・アルゴ ■ホイール：DTスイス・PRC1400スプライン35 ■タイヤ：ピレリ・Pゼロヴェロ ■サイズ：460、490、520、550、580 ■カラー：全10色 ■試乗車重量：7.6kg (490/ペダルレス)



1/大ボリュームが特徴的なフロントフォーク。ディスクブレーキの台座は標準的なフラットマウント規格とした。ブレーキキャリアへ付近での乱気流の発生を抑えるブレード形状を採用した 2/フォークからトップチューブを直接つなぐようなデザインで、ヘッドチューブを独立させた形状とした。これによりフロントまわりの剛性過多を抑え最適化しているものと思われる 3/大口径のダウンチューブに合わせて幅広のプレスフィットBBを採用した。シートチューブはリアホイールを包むようにデザインし、空力性能を高めている 4/湾曲した形状により路面追従性を高めたシートステー。トップチューブに接続する形状で、シートチューブのフレックス性を確保している